



Title	北海道大学歯学部図書室によるZoomを用いた留学生向け電子リソース講習会の取り組み
Author(s)	児玉, 陽子
Citation	医学図書館, 69(1), 26-29
Issue Date	2022-03-20
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/86317">https://hdl.handle.net/2115/86317</a>
Type	journal article
File Information	Kodama 2022.pdf



# 北海道大学歯学部図書室によるZoomを用いた留学生向け電子リソース講習会の取り組み

児玉 陽子\*

北海道大学附属図書館研究支援課医系グループ（歯学部図書担当）

## I. はじめに

北海道大学には現在約2,000名の留学生が在籍している。留学生に向けた図書館講習会はこれまで様々なものが行われてきた。短期留学生向け利用講習会や理学部の留学生レセプションでの利用案内、また、教員からの要望を受けて、3図書室（獣医学研究院図書室、低温科学研究院図書室、北キャンパス合同事務部図書室）が共同で実施した講習会もあった。3図書室で行ったものは、理系留学生向けで、Web of ScienceとEndNote basicを中心にしたものであった。一方で、医系留学生向けの講習会はほとんど実施されていなかった。そこで今回は最初の試みとして、2021年10月に、歯学部図書室でZoomを用いた留学生向け電子リソース講習会を実施した。本稿ではその概要を報告する。

## II. 北海道大学における留学生数の推移とその背景

図1は北海道大学における留学生数の推移<sup>1)</sup>であるが、堅調な伸びを示している。

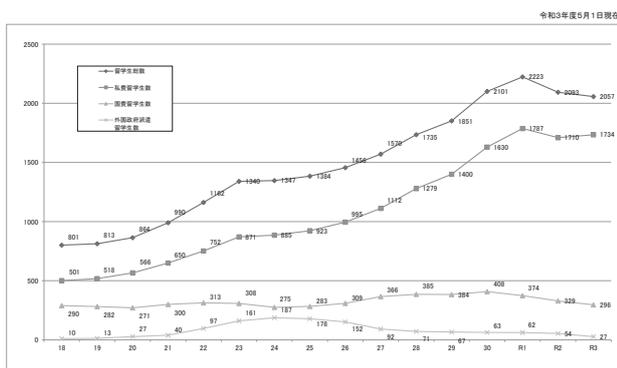


図1. 北海道大学の外国人留学生数の推移

2006年には801名であったが、2019年には2,223名まで増加した。これは2014年に「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略（北大近未来戦略150）」が策定されたことが契機の一つであった。その中核は、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されている「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ（HUCI）」構想である。具体的には「国際大学院」群の新設、海外大学との連携、サマー・インスティテュートの開催などである。また、英語での学位取得を目的とし、英語で実施される大学院の特別プログラム<sup>2)</sup>も7つある。

## III. 講習会の開催

### 1. 開催の経緯

大学院歯学研究院・歯学院・歯学部においても海外大学と多くの国際交流協定が結ばれ、スウェーデンのウメオ大学へ学生が短期留学するなど交流が活発である。とりわけ、バングラデシュから北海道大学に留学し、学位を取得し帰国した歯科専門家により、2000年にバングラデシュに“サッポロ・デンタル・カレッジ”が設立され、今日まで教育・研究において交流連携が行われていることは重要である。

2021年度現在、大学院歯学研究院・歯学院に在籍する留学生は30名、研究生は2名で、国籍はタイ、中国、バングラデシュ、ベトナム、サウジアラビアなど多様である。日頃職員としてこのように国際交流が盛んな様子を見ていると、留学生に図書館を利用するうえで十分な情報が伝わっているのか、データベースや文献管理ソフトがどれくらい利用されているのかといった疑問を持つが、実のところはよくわかっていない。もし講習会の場があれば、利用者の声を聞くという意味でも有効なのではないかと思い、今回の企画となった。すでに実施されていた理系の留学生向け講習会が受講者から好評を得ていたことも後押しとなった。

\*Yoko KODAMA : 〒060-8586 北海道札幌市北区北十三条西七丁目。  
Fax.011-706-3454 yog@jimuhokudai.ac.jp

(2021年11月16日 受理)

## 2. 講習会の内容

資料は Microsoft PowerPoint で作成し、40 ページほどの平易な英語表記とした<sup>3)</sup>。内容は以下のとおりである。

### 1) 電子ジャーナル・電子ブックの探し方

図書館ウェブサイトで電子リソースの具体的な場所を指し示すとともに、他大学からの文献複写取り寄せサービスや図書購入リクエストも紹介した。

### 2) PubMed (履歴検索 / MeSH)

履歴検索と MeSH について触れ、検索画面から全文へのリンク箇所を示した。

### 3) EndNote basic (PubMed からの取込み、参考文献作成)

EndNote basic の基本機能を説明したのち、Microsoft Word の参考文献リストの作成を実演した。

### 4) リモートアクセスサービスおよび機関リポジトリの紹介

学外からでもデータベースを利用できる便利なサービスとして、リモートアクセスサービスを紹介した。また博士論文が公表される場所として機関リポジトリを案内した。

### 5) メトリクス等 (Citation / h-index / Journal Impact Factor / DOI / ORCID / オルトメトリクス)

よく使われる研究評価指標として各指標を簡単に説明した。とくに論文の被引用数や h-index は Web of Science からの算出方法を示した。

### 6) ハゲタカジャーナルに気をつけよう

論文投稿料の取得を目的として、適切な査読を行わないなど多くの問題が指摘されている粗悪学術誌は、研究者にとって身近な問題となっている。注意喚起という意味も込めてここで取り上げた。

### 7) 最近のトピック～オープンアクセス、研究データ管理

オープンアクセスのバックグラウンドやその類型 (ゴールド OA, グリーン OA, ハイブリッド OA) などを紹介した。あわせて、エンバーゴやクリエイティブ・コモンズ・ライセンスといった用語にも触れた。そして最近の話題として、研究データ管理の流れを概観した。

ハゲタカジャーナル問題やオープンアクセスといったことは留学生にとって現時点ではピンとこないかも知れないが、今後何かのときに思い出してもらえればという考えからトピックに含めた。また、北海道大学附属図書館のウェブサイトには英語表記のページがあるので、講習会資料では英語ページへのリンクも案内した。

受講者には予め申し込みをしてもらい、希望時間帯を聞いてスケジュールを設定するとともに、資料を事前にメールで送付した。広報は学部メーリングリスト、図書室ウェブサイトおよびフライヤーで行なった。また、歯学部には図書委員会があり、その委員長職にある教員にも事前に企画を説明したところ、良い試みなのでぜひ進めてくださいとのコメントを得た。

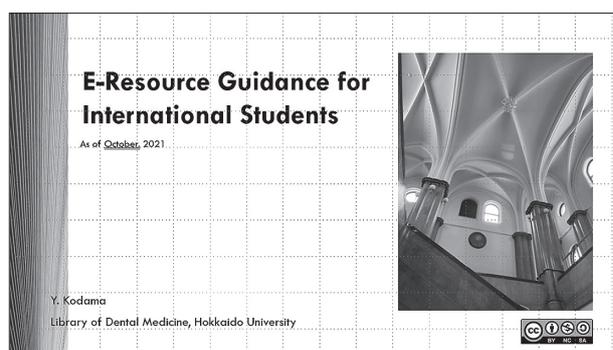


図2. 講習会資料 (表紙)



図3. 講習会資料 (目次)

## 3. 講習会の実施

講習会は受講者の希望時間帯により、受講者が1名のときと複数名のときの両方があった。Zoom を使ってリアルタイムで行い、資料を画面で共有しながら、職員が平易な英語で30分ほど説明した。10月の第1週にオンラインにて開催し、第2週以降は資料を北海道大学の機関リポジトリ (HUSCAP) に掲載し、自由にダウンロードできるようにした。受講者はオンライン8名 (教員1名、大学院生 (博士) 7名)、ダウンロード数38回 (期間: 2週間) であった。

## 4. アンケート結果

終了後にフォームに入力する形式で、以下のアンケートをお願いした。

- 1) 参考になった項目
  - 2) ほかに講習会で取り上げて欲しい項目
  - 3) 普段利用しているデータベース名
  - 4) 講習会方式として、オンラインと対面とではどうか
  - 5) 図書室の蔵書について、さらに必要な図書はあるか
- アンケートには5名から回答があり、“研究にとっても役立つと思う”、“EndNoteについてもっと詳しく知りたいので後日図書室へ伺いたい”等のコメントを頂いた。参考になった項目にはPubMed, EndNote basic, メトリクス, ハゲタカジャーナル, リモートアクセスサービスが挙がっていた。とくにPubMedとEndNote basicについて、PubMedの検索結果をEndNoteへ取り込む様々な方法や、論文の参考文献を作成する際に、用意された書式がない場合はダウンロードができるのか等の質問が講習会中にあった。EndNote basicについては、日頃から使っている方が2名で、他の方は多少知っているという感じであった。普段利用するデータベースとしてほとんどの方はPubMedを挙げ、ほかにGoogle Scholar, Google Books, Web of Scienceが挙がっていた。

また実施形態として、対面よりもオンラインを好む意見のほうが多かった。自席から気軽に参加できること、音量調節が可能なのでお互いの声が聞きやすいこと、さらに事前に資料(PDF)を一読できることなど、柔軟な点がよかったのではないかと推測される。受講者に急な用事が入り、約束していた時間に行えなくなった回があったが、Zoomであれば再設定もスムーズである。対面でPCやプロジェクターを使用していた場合は、再度の設営に多少時間を要したところである。一方で、対面式は相手の表情がわかり、コミュニケーションが取りやすい。講習会後に受講者から質問が出て、資料をあちこち見ながら話す場合は、対面のほうが話が伝わりやすい。

## 5. 蔵書構成についての質問

今回のアンケートにおいて講習会には直接関係していないが留学生の意向を知る良い機会なので、図書室の蔵書について、さらに必要な図書はあるかという問いも加えてみた。閲覧室には歯学関係の洋書が1,000冊ほどあるが、それについては“現時点では、まあ足りている”とする方が4名、“歯学のほかにBasic Scienceも整備して欲しい”という意見が1名からあった。これまで担当職員として歯学関係書ばかり収集していたので、今後はBasic Scienceも視野に入れたい。

## IV. 今後に向けて

講習会終了後は簡単な報告文書を作成し、参加人数やアンケート結果をまとめ、他の図書館職員と情報共有した。

PubMedは関心が高かったので、次回はもう一步踏み込んで、個々人のPubMed使用歴や関心事を事前によく聞いておき、講習会ではできるだけ意向に沿った説明を展開できると良いと思う。今回履歴検索とMeSHを中心にしたのは、歯学部の日本人学生・大学院生向けに担当している授業のなかで取り上げている内容と同様にしたためであったが、国籍が様々な留学生にはもっと多様で柔軟であってよいと思われる。30分という短い時間を考慮すると、希望者には別途、PubMed編やEndNote編などの講習会を用意することも有効であろう。いずれにしても、講習会を通して生まれる留学生とのコミュニケーションの場は、貴重である。

2022年1月に、今後の道しるべとなる「2040年に向けた北海道大学の国際戦略」<sup>4)</sup>が策定された。このなかでは、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に世界的に広がったオンラインによる教育や国際交流の取組の拡充がうたわれている。

遠路来日する留学生は研究のモチベーションも高いので、どのような需要があるのかを探りながら、他の図書館とも情報交換しつつ、工夫を重ねたい。留学生講習会には、まだまだ大きな伸びしろがあると思われる。

## 参考文献

- 1) 北海道大学オープンエデュケーションセンター. 「効果的なオンライン授業の設計と実施方法」第1部: 教育セミナー[internet]. <https://www.open-ed.hokudai.ac.jp/2021/09/seminar01-20210914/> [accessed 2022-01-20]

## 引用文献

- 1) 北海道大学. 国際交流のデータ 留学生数の推移[internet]. [https://www.hokudai.ac.jp/international3/pdf/210907\\_ryugakusei\\_suii.pdf](https://www.hokudai.ac.jp/international3/pdf/210907_ryugakusei_suii.pdf) [accessed 2022-03-12]
- 2) Hokkaido University Admission Center. Degree Programs in English[internet]. <https://www.global.hokudai.ac.jp/about/publications/degree-programs-in-english/> [accessed 2021-10-26]
- 3) Y. Kodama. E-Resource Guidance for International Students[internet]. <http://hdl.handle.net/2115/82936> [accessed 2021-10-26]
- 4) 北海道大学. 2040年に向けた北海道大学の国際戦略[internet]. <https://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/global-vision2040/> [accessed 2021-10-26]

## E-Resource Guidance for International Students Conducted Using Zoom at the Library of Dental Medicine, Hokkaido University

Yoko KODAMA

Hokkaido University, Library of Dental Medicine. Kita 13 Nishi 7, Kitaku, Sapporo, Hokkaido, Japan

**Abstract:** In 2014, Hokkaido University endorsed the “Hokkaido Universal Campus Initiative (HUCI).” This policy articulated the university’s strong commitment to implementing the internationalization of its higher-education system. Accordingly, the number of international students and researchers visiting Hokkaido University has been increasing dramatically for the last decade. At the same time, the HUCI has brought about a new diversity among international students in terms of their disciplines and academic interests. To meet the growing demands of students and researchers from overseas, Hokkaido University Libraries have provided various seminars on various occasions. A seminar titled “E-Resource Guidance

for International Students” was hosted online (via Zoom) by the Library of Dental Medicine in 2021. This seminar included contents such as E-journals, PubMed, EndNote basic, remote access services, “Predatory Journals,” and so on. PubMed, EndNote basic and “Predatory Journals” were the most popular topics at the seminar. Participants reacted quite positively to the online guidance. The Zoom seminar would provide considerable flexibility.

**Keywords:** Library Seminar; International Students; Computer User Training  
(*Igaku Toshokan*. 2022;69(1):26-29)